

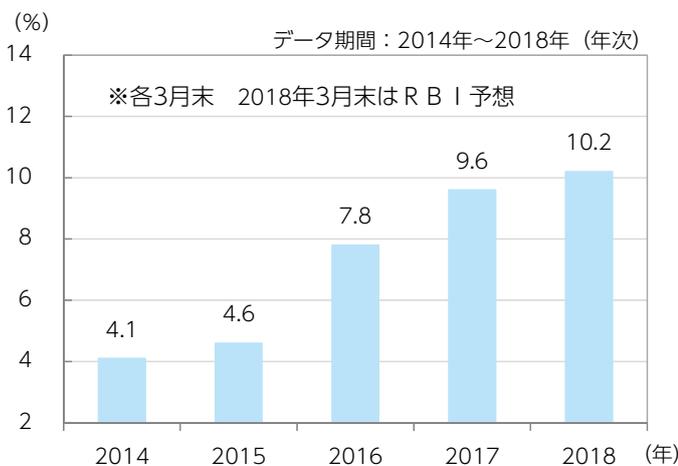
新興国レポート

インド政府が国営銀行への資本注入計画発表

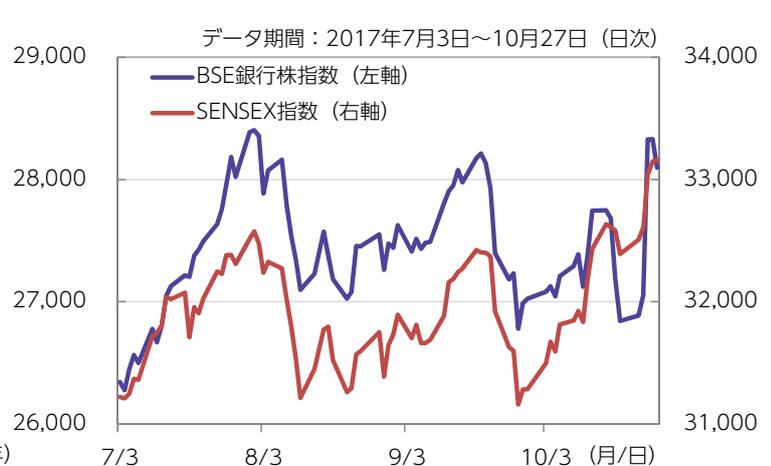
インドの不良債権処理が大きく前進すると期待感を生む

- ▶ インド政府が発表した国営銀行に対する2年間で2.11兆インドルピーの資本注入額は2016年度の約9倍の大きさで、不良債権処理を加速させようとする意図が見受けられる。
- ▶ インド経済の課題の一つとされる不良債権処理が進めば株価の支援材料に。インドの格付け引き上げ観測につながる可能性も。
- インド政府は10月24日、経済成長を促すために今後2年間で2.11兆インドルピー（約3.7兆円）（インドGDP（国内総生産）の約1.2%）を国営銀行に資本注入すること、今後5年間で6.92兆インドルピー（約12兆円）をかけて総距離83,677kmの高速道路建設を行う計画を発表しました。同建設計画ではその実施により少なくとも1.4億人の雇用創設を目指すとしています。
- 政府は2017年度（2017年4月～2018年3月）及び2018年度（2018年4月～2019年3月）の2年間で合計2.11兆インドルピーを国営銀行に資本注入する計画を発表しました。内、1.35兆インドルピーは債券発行で調達し、その一部は年内に発行される予定です。2年間合計の資本注入額は2016年度の注入額約2,300億インドルピーの約9倍の大きさです。
- 定義を厳格化したこともあり、銀行の抱える不良債権は急増しています。インド準備銀行（RBI）によると、2017年3月末時点で貸出残高に占める不良債権の比率は9.6%（国営・民間銀行合計）で、2018年3月末には10.2%に上昇すると予想されています。不良債権を多く抱える銀行は貸出に消極的になり、インド経済に悪影響を及ぼしているとみられています。インド政府は不良債権処理を進めるべく、2016年5月に破産法の制定、2016年10月に倒産・破産委員会の設置、2017年5月にはRBIにより強い権限を与える不良債権処理包括案の承認等を行っています。今回もその流れに沿ったものですが、資本注入額を大きくしたことは同処理を加速させる意思を示したと受け止めることも出来そうです。
- 同計画発表をうけた25日のインド株式市場ではSENSEX指数が初めて33,000に乗せ、銀行株セクターが急伸びしました。不良債権処理が進展し、企業の借入ニーズや銀行の貸出意欲が高まれば、経済成長を底上げし、企業業績の増額修正期待等を通じて株式市場の支援材料になることも考えられます。尚、資本注入のための債券発行で需給が悪化するとの見方等からインドの10年国債金利は上昇（価格下落）しましたが、不良債権処理が前進すれば格付けが引上げられるとの期待感もあり、金利上昇幅は限定的でした。

図表1：インドの銀行の不良債権比率の推移



図表2：インド株式市場動向



出所：図表1はRBI、図表2はブルームバーグデータを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント